

学生主体の新しい学士課程の創成事業 第8回FD・SD講演会

全教職員の協働

～持続発展可能な教育研究事業体としての和歌山大学をめざして～

国立大学法人 和歌山大学
山本 健慈 学長



7月11日(月)、本学共通講義棟で行われました、山本健慈和歌山大学長による第8 FD・SD講演会「全教職員の協働～持続発展可能な教育研究事業体としての和歌山大学をめざして～」(教育開発センター主催)の要旨は以下の通りです。

今日、国立大学は法人化に伴い厳しい経営に直面しています。国立大学法人は、財源が縮小していく一方でミッションは拡大しつつあり、大学に寄せられる要望すべてにひとつひとつに答えることは不可能になっています。

そこで掲げた和歌山大学のスローガンは、「和歌山大学は生涯あなたの人生を応援します」になりました。これには、国民に信頼されるような大学を目指すため、学生・教職員・地域社会にとって、和歌山大学とコミットしている時間が人生において意味を持つものであってほしいという願いがこめられています。また、大学では共通の目標に向かって進んでいる実感がないと言われているため、和歌山大学では学内外の人に共有してもらえようような焦点化した目標、すなわち「7つの行動宣言」を設けました。

FD・SDを考えるにあたって、基本となるのは次の3点です。1点目は、教員・職員・学生相互のアプローチ・価値観を認め合って信頼関係を築くこと。私(山本学長)は、和歌山大学に赴任した当時から、経営に関する見識をあまり持たないにも関わらず、大学におけるほとんどの権限を担っている教授会とその大学経営に違和感を持っていました。教職員の人生の支援のためには、学長の強い権限による経営ではなく、教員が研究者としてひとりひとりの個性を保障されるべきです。また、実務を淡々とこなすのではなく、主体的に大学に関わって大学を高めることに努力する教職員を育てていくことも重要です。和歌山大学では、他大学の取り組みや情報を得るために職員を中心にリサーチし、教職員の年齢を問わず大学のミッションは何かを伝える場を設けており、教職員一人ひとりの言論の自由を保障して、トップダウンではない風土作りに努めています。

2点目は、現場で起こっている問題を認識することから出発することです。教職員と学生との関わり方を考えるにあたっては、教職員は現代の学生は入学するまでにどういう人生を過ごしてきたのか、また卒業後どういう人生を歩めば学生にとって有意義であるのかを認識する必要があります。また教職員は、学生も教員も人間的に未熟な面を抱えているために両者のトラブルは起こって当然だと捉え、学生と接するべきです。

3点目は、起きてしまったトラブルを再発防止のために組織の財産として共有し、教訓化することです。教職員は、自身が抱えている問題を自分の中に抱え込んでしまったり個人で処理したりして、組織的に共有することが出来ていません。学生同士、または教員・学生間のトラブルを学部長会議などをおして共有し、組織的に解決・再発防止に取り組むべきです。和歌山大学では、教員ミーティングを開き、ほぼ全教職員を集め、悩みトラブルを語り合う場を設けました。こういった取り組みの中で、教職員の間で経営能力が磨かれ、ノウハウが蓄積されることで、よき経営者を育てていきたいと考えています。

記録担当：文教育学部人間社会科学科1年 崎間南・羽山祥世

Photo：教務チーム 教務企画係

